



福島南ロータリークラブ

基本方針: 原点を見つめ、みんなのための奉仕を

事務局/〒960-8151 福島市太平寺字通吹 6-2 ザ・36・メイファイブ 1F2号室
tel. 024-546-3793 fax. 024-545-7878
例会場/サンパレス福島 〒960-8101 福島市上町 4-30
tel. 024-523-3811(代) fax. 024-523-0375
HP アドレス <http://www.inaka.ne.jp/f-southrotary/index.html>



■会長：紺野仁昭 ■幹事：佐久間 功
■会報委員長：松崎弘昭 ■副委員長：佐藤朋也
■委員：斎藤善重 斎藤信男 佐々木孝光 丹治洋子

第35回例会

平成 25 年 4 月 3 日 (水) サンパレス福島

■会員/67名 ■出席/41名 ■出席率/61.19% ■メイクアップ/5名 ■修正/46名 ■修正率/68.66%

本日のプログラム

- 1 開会点鐘
- 2 来訪者紹介と会長挨拶
- 3 ロータリーの友読みどころ
クラブ会報・雑誌委員会
- 4 誕生祝い
喜古 勝弘 親睦委員長
- 5 会員スピーチ
丹治 智幸 会員
尾形 博幸 会員
- 6 閉会点鐘

会員の広場

◆例会時間変更のお知らせ◆

4月17日(水)の第37回例会は、家族観桜会のため例会時間を午後6時からサンパレス福島 3階 インザスタイルに変更して行われます。

今日の一面記事

東京電力福島第一原発内の地下貯水槽から放射能汚染水が漏れた問題で、東電は6日、漏れた量の推定を約120トン、漏れた放射能は約7100億ベクレルと発表した。事故前の年間排出上限の約3倍の量。2011年12月に政府が事故収束宣言して以来最大という。(4/6朝日新聞)

◆会長あいさつ◆

紺野 仁昭 会長

第35回例会のご挨拶を申し上げます。

はじめに、今月誕生日を迎えられる方が、6名いらっしゃいます。後ほどお祝いを差し上げたいと思います。おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

また、本日は会員スピーチ例会となっております。丹治智幸会員と、新会員の尾形博幸会員に後ほどスピーチをいただきます。よろしくお願いいたします。

次に、前からお話ししておりました、東京日本橋東ロータリークラブが企画しております「ミニSLで福島の子供達に笑顔を」のプロジェクトが、5月3日・4日の両日に渡り、四季の里で行われます。福島21ロータリークラブと当クラブがお手伝いすることで進められてきましたが、ようやく内容が固まってきました。次週の例会で吉田和義社会奉仕委員長より、詳しくお伝えできると思います。それから皆様に改めてご案内を申し上げます。

今回は人的奉仕となります。ゴールデンウィーク中でもありますので、たくさんの方が集まると予想

されます。人手が一人でも多く欲しいと思われまので、会員の皆様には、多数ご参加いただきたく、よろしく願いいたします。

さて、毎年4月はロータリー雑誌月間となっております。クラブはその月間中に雑誌に関するプログラムを実施しなければならないことになっています。ロータリーの雑誌に対する会員の認識を深め、それによってロータリーの情報の普及を図ることが目的です。また、会員はRIの機関誌を購入し、その購読を続けることを、会員身分の保持条件としています。毎月、雑誌委員会により、ロータリーの友読みどころをご紹介しますが、忙しいと、つい読みどころだけ読むということもあるのではないのでしょうか。今月はバックナンバーを読み返してみるのも良いと思います。

これで会長挨拶といたします。

◆ロータリーの友読みどころ◆

福田 昌明 会員

4月号の読みどころをご紹介します。

横書き

P.1 RI 会長メッセージ イチバン

P.8 友の活用法

P.20 田中作次会長 in Japan 縦書き

P.14 バナー自慢

P.21 ポリオについて



◆誕生祝い◆

4月は6名の方がお誕生日をお迎えになりました。おめでとうございます。

佐久間 功 会員

(S. 23. 04. 02)

高橋 和子 会員

(S. 23. 04. 05)

黒羽 好夫 会員

(S. 24. 04. 24)

佐藤 朋也 会員

(S. 33. 04. 20)

福田 昌明 会員

(S. 34. 04. 13)

赤間 浩一 会員

(S. 50. 04. 26)



◆会員スピーチ◆

丹治 智幸 会員

震災から2年。現在もなお、15万人以上の同胞が、避難生活を余儀なくされています。これから何十年もの間、原発の廃炉に向けた研究と作業を覚悟しなければなりません。福島原発の廃炉が実現し終息となります。避難されている仲間が暮らす場所が定まり、復旧となります。

今回の震災対応で、政治に対して信頼や希望はついでました。現在も、新たな課題が生まれています。政治に携わる者として、責任の一端を感じます。これからも、私たちは、愛する故郷福島で生きて行きます。福島の再生を誓い、困難を乗り越え、子どもや孫に、確かな未来を引き継ぐ責任があります。

震災からの復興は、これまでの高齢化と過疎化を抱えながら、変革を成し遂げなければなりません。まずは、大規模除染。そして、県民の健康管理の充実を図る必要があります。特に、子ども達の甲状腺検査などは、年に1回の定期検査実施の枠組み作りが必要です。その上で、産業の振興が必要です。

福島県には、沖縄県と並んで、『特別措置法』が制定されました。これは、福島県の新たな可能性を意味します。例えば、県立医科大学病院の機能強化が3年で実現します。さらに、医療系企業の集積を図る戦略を描くことが出来ます。そのために、物流網を整える必要があります。東北中央道が10年以内に完成し、東北地域が新たな物流拠点になる発展が見込めます。それらを進めるに当たって、特区制度等を

利用した優遇策を図ることが出来るのです。福島の再生は、今、この地に命を受け継ぐ私たちの責任です。

◆会員スピーチ◆

尾形 博幸 会員



夢=物欲を持ってビジネスをしよう。つまり社会の一人一人が欲を持ち夢を描き追いかけて叶える事で社会が自然に良くなっていく。つまり社会的責任を各自追求していく事がロータリー精神とも通じるものがあると思います。

◆本日のランチ・刺身の歴史◆

新鮮な獣や鳥の肉・魚肉を切り取って生のまま食べることは人類の歴史とともに始まったと言ってもよいが、人類の住むそれぞれの環境に応じて、生食の習慣は或いは残り、或いは廃れていった。日本は四方を海に囲まれ、新鮮な魚介類をいつでも手に入られるという恵まれた環境にあった為、魚介類を生食する習慣が残った。即ち「なます(漢字では「膾」、また「鱠」と書く)」である。「なます」は新鮮な魚肉や獣肉を細切りにして調味料を合わせた料理で、「なます」の語源は不明であるが、「なまし(生肉)」「なますき(生切)」が転じたという説がある。一般には「生酢」と解されているが、それは調味料としてもっぱら酢を使用するようになったことによる付会の説であり、古くは調味料は必ずしも酢とは限らなかった。この伝統的な「なます」が発展したものが刺身である。なお、「鱠」はあくまでも文献上は古代中国の膾が先行するが、もともと原始的で単純な料理でもある上、中国では海を化外の地(けがいのち)と呼び、忌み嫌う価値観が存在することと、肉や野菜を生食する習慣は疫病の流行などで早くに廃れたので、日本の「なます」は独自に発生、発達したと見るのが自然である。(wikipedia)

今月・来月のプログラム

- 4月10日(水) 会員スピーチ(金子親房次年度幹事) 第11回理事会・パスト会長会
- 4月17日(水) 家族観桜会
- 4月24日(水) 新会員スピーチ(赤間浩一会員) 会員スピーチ (姉妹クラブ合同観桜旅行報告) ロータリー雑誌月間講話 (広報雑誌委員長)

—編集後記—

お二人の方から、素晴らしい会員スピーチをいただきました。それぞれの分野で、今後も素晴らしいご活躍を祈念したいと思います。なお、記事のヴォリュームの違いは、お預かりした原稿量の多寡によるものです。(さとう)